

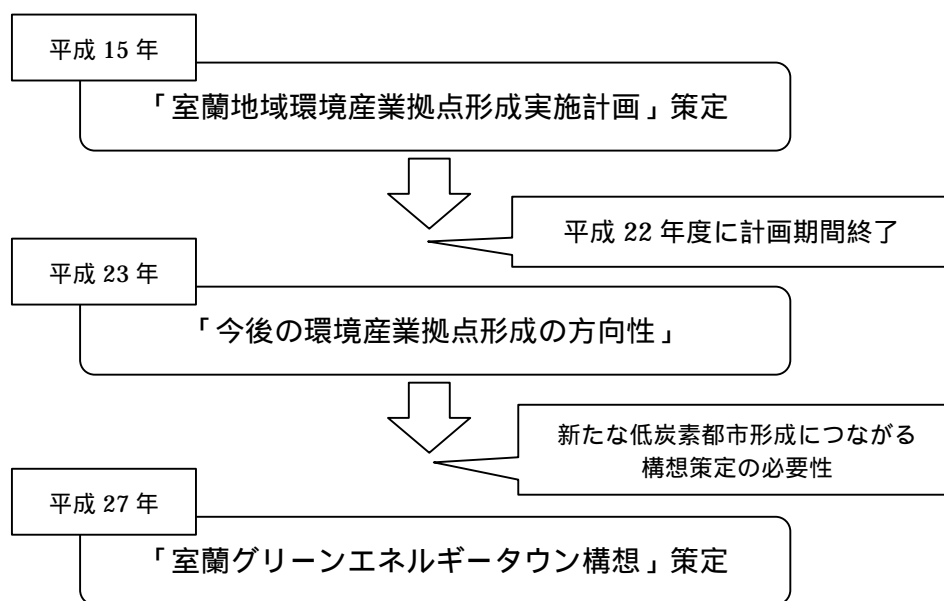
# 室蘭グリーンエネルギータウン構想

## 1. 背景及び目的

### (1) 構想策定の背景

室蘭市は、鉄鋼業を中心に蓄積された高度な産業技術や人材・企業による突出した工業・港湾物流基盤、大学等の研究開発機関を持つ、「ものづくりのマチ」として発展してきました。近年になって資源循環型社会の形成が重要視された背景もあり、平成15年にこれら産業基盤を活かした「室蘭地域環境産業拠点形成実施計画<sup>1</sup>」を策定し、産学官の連携により廃棄物処理等、リサイクル資源循環型都市形成や低炭素都市形成を進めるなど環境産業振興を図ってきました。同実行計画は平成22年度に終了し、その後本市は「今後の環境産業拠点形成の方向性<sup>2</sup>」を打ち出しましたが、この間、世界的な地球温暖化対策の必要性や東日本大震災以降のエネルギー問題への対応が求められるようになりました。

こうした中で本市は地域でエネルギーを創り利用するエネルギーネットワークの構築により、地域の自立性、地域経済の活性化、産業振興、災害時の防災機能の強化などが期待できる新たな低炭素都市形成につながるエネルギー構想が必要と考え、従来、行政主導の視点になりがちであった構想を、初期段階から住民が参画する「パブリック・インボルブメント<sup>3</sup>」により創りあげ、「環境産業の推進」・「地域経済の活性化」・「低炭素なまちづくり」の実現を産学官「民」の連携により目指すこととしました。



なお、室蘭市は全国有数の産業都市であり、産業部門の経済活動によるCO<sub>2</sub>排出量やエネルギー消費量の占める比率が高い特徴がありますが、産業部門では業界団体を中心に温暖化対策が進んでいることから、産業部門の役割としては、特に温暖化対策やエネルギー問題への対応が求められる民生家庭・民生業務部門<sup>4</sup>を対象とした環境産業への取り組みを中心とします。

(2) 構想策定の目的

本市がポテンシャルを有するグリーンエネルギー<sup>5</sup>(水素エネルギー、再生可能・未利用エネルギー<sup>6</sup>)などを利活用した「エネルギーの地産地消」と、地元企業の既存技術や新たな技術・システムなどの地域社会への実装に向けた開発・実証・事業化、及びその先進性の発信を通じ、以下の三項を実現することを目的とします。

環境産業都市としての新たな成長基盤の創出による地域経済の活性化

北海道の次代のエネルギー社会構築に向けた先導的役割

環境負荷の低減と、子どもからお年寄りまで市民にやさしく住みよい低炭素都市の創造

